

## 第1学年 国語科学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日(金) 4校時
2. 単元名 「音をさがしておはなしづくり」(全11時間 本時6時間目)
3. 単元目標

- 擬声語・擬態語をもとにしたお話作りに関心をもち、創作活動を楽しもうとする。
- 「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話を作ることができる。

4. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり  
低学年ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」  
・人の言動に何かを感じる姿  
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

### (1) 児童の実態

#### <1年の子どもたち>

何事にも一生懸命に取り組もうとする児童が多い。決められた仕事や役割があると、進んで行く児童がおり、それを見て**良い行動をまねできる児童も増えてきている**。入学当初は、みんなの前で話すことができなかった児童もいたが、徐々に笑顔が見られ学校生活にも慣れてきているところである。明るく優しい児童が多く、友だちが困っていると声をかけている場面もある。しかし出身幼稚園や保育園、あるいは登下校が一緒の友だちなど、せまい範囲の友だち同士で固まりがちである。そして関わりが少ない友だちとは、遠慮して声をかけられずにいる場面もよく見られる。そのため、グループ活動ではいろいろな友だちと関わる場を意図的に設定し、少しずつ慣れていけるようにしている。

学習では、一問一答の課題で答えが明確な場合は発表することができる児童が多いが、登場人物の気持ちを考えて自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聞いて素直に反応したりすることはまだ十分ではない。また、意欲的に発言する児童はかたよりがちである。課題に対して的確な意見を話す児童はいるが、その話の説明が1年生の語彙力と理解力ではなかなか難しい場面もある。その時には、友だちの言葉を**分かりやすく言い直したり、説明したり**することができないか**みんなで考え、それでも難しい場合は教師が補足して共通理解**し、話し合いができるようにしているところである。話し合う場を工夫して、友だちに自分の意見を伝える経験をし、**友だちの意見に素直に反応することを大切にしている**が、まだ練習が必要な段階である。

#### <聴く・話すについての指導>

「聴く」については、どんな態度だと話す人が話しやすいかを、入学当初から学習する態度も含めて指導してきた。書写・国語・学級活動などで学習する姿勢として「足はペタン、背中はピン、お腹と背中にグーひとつ、手はおひざ」など合い言葉を決めて、繰り返し意識できるようにしてきた。だが、話を最後まで聴くことができず話の途中で質問したり、手いたずらをして集中できなかったりして、話し合いに参加できていない児童がいる。全員が聴くことを意識できるように、発表時に他の児童が話を遮りそうになった時には手でサインを出したり、教師が話す際には全員の目が合うまで話さず待つこと

を繰り返したりすることで、聴く姿勢に切り替えることができるようになってきた。**聴く時には、話をする人の方を向くことや目を合わせることも、少しずつ意識できている児童は多い。**また、うなずきや言葉で話に反応ができている児童もいるので、そのような児童を認めつつ、全体で学習を進めていけるように取り組んでいるところである。

「話す」については、学習の中でペアやグループを取り入れ、気軽に話せる場を設定してきた。緊張感のない場であれば、どの児童も話すことができている。しかし、学習になると担任を見て話す児童もいるため、教師が立ち位置を変えることで全体に聴こえるような声で話すことを意識させた。また、「〇〇です。」など、語尾までしっかり言うような指導をしてきた。相手意識や声の大きさについては個々によって様々で、まだまだ十分ではない。言葉の理解にも差が大きいため、しりとりで語彙を増やしたり、物語文や説明文に出てくる言葉を確認したりしながら、全員が学習に参加できるようにしてきている。

#### <これまでの関わり合い・ひびき合い>

本時の学習が解決したい切実な問題であると、児童同士で真剣に聴き、それについて反対や質問する言葉を使って意欲的に関わる姿があった。生活科「わたしのあさがお」で、つるをどうするかの話し合いをした時に、大切に育ててきたあさがおのつるを何かしらの形で残したいという意見が出た。リースや縄跳び、ハンモックにするなど子どもらしい発想が出てきた中で、「いいね。」と同意する児童もいたが、「でもさ、縄跳びはできるかもしれないけれど、跳んで引っかけたら切れちゃうよ。」や「でもハンモックは、つるを繋げれば長くなるけれどそんな丈夫にできないよ。」など、**素直に思ったことを伝える児童もいた。**

国語「うみのみずはなぜしょっぱい」では、昔話を読み、その話は読者に何を伝えたいのかを話し合った。その際、「ひきうすが今も回っていることだよ。」や「塩がしょっぱくなったことを伝えたいんじゃない？」など話の意図とは、ずれている考えが出てきたとき「でもさ悪いことをするとそれが自分にも返ってくるんだよ。」と意図に合った答えを伝えた児童がいた。**話し手の考えを受けとめて「いいね」や「なるほど」などの賛成する反応だけではなく、「でもさ」に繋げて自分の考えを伝えていくことも反応することであると指導している。**そんな素直な表現が、学習の中で生かされ繋がっていくように努力しているところである。

## (2) 単元と指導

### <単元について>

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年「書くこと」の指導事項「ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」「エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。」及び言語活動例「ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。」にあたる。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。」を受けて、設定された単元である。

本教材『『音』をさがしておはなしづくり』では、挿絵から想像してお話を作り、擬声語や擬態語を入れながら内容をさらに詳しくしていく。また、話の順序を分かりやすくするために接続語も入れた文章を構成していく。

擬声語や擬態語は、生活の中でも耳にしたり使ったりしており、子どもたちの表現手段としては身近な言葉である。これまでに、平仮名や片仮名を学習してきているので、それを使って文を作る活動は、**親しみやすい学習**であると考えられる。

今までの学習の中でも、詩や文章の中に出てくる表現で繰り返しのある言葉に触れている。その際に、

**身振りや手振り**で言葉を表現している姿があった。絵からいろいろな「音」を想像し表現したり、実生活の中から経験した音を言葉に表したり、さらに友だちの考えを聴くことで、言葉の幅が広がると考える。また、接続語として「でも・だから・そして・それから」など何気なく児童が使用している言葉を文の中に入れることで、順序立てて文章を作ることに繋がると思える。

言語活動の基盤となる「音」の言葉集めを共有する、どの子も意欲を持って取り組める単元である。一つの動作でもいろいろな表現の仕方があり、言葉が表すイメージやおもしろさを感じながら、お話づくりを進めていきたい。

#### <指導について>

「まてまてかえるくん」の学習では、お話作りを経験してきた。挿絵を見て、登場人物の動作や行動に着目し、「〇〇が□□している。」などの言葉を使って文を書き、学習の最後には一冊の本のようにしてまとめた。平仮名の習得途中であったので書くことに個人差はあったが、どの児童も挿絵の登場人物の行動に着目して、漫画の話を作っているような感覚で楽しみながら学習をしていた。その学習を生かして、本学習も絵を見て想像を広げ、児童の感じたことや思ったことを素直に文章にできるように自由な発想を大切にしていきたい。

今回の学習では、教科書の挿絵を使って擬声語や擬態語の入ったお話作りの学習を進めていく。教科書の挿絵でお話作りをした後、新たな絵から想像を膨らませていき、最後にその話を来年度の1年生の保護者説明会で来る幼稚園や保育園児に発表する学習へと繋げていく。そのため、絵がとても大切な教材となる。**書くことが苦手な児童や想像したことを言葉にするまでに時間がかかる児童もいるので、絵は身近な出来事で、登場人物や行動・表情などが想像しやすく、また楽しく分かりやすいものを提示していく。**3枚の絵でお話を作っていくが、提示する絵は、教師側が用意したものであり、着目してほしいところを中心に描き、必要のないものは取り除いた絵にしていく。そうすることで、お話作りに対する児童の意欲や新1年生に伝えたいという気持ちを高めていく。

これまでの学習から、擬声語や擬態語を入れた文章を作る児童もいるであろう。全員が使っているわけではないので、「他にどんな言葉を入れるともっと楽しいお話になるか。」を考えて、擬声語や擬態語を使った文章を作り、楽しいお話になることに気付くようにしていきたい。また、言葉のもつイメージや児童が感じたことを素直に表現できるように、体やものを使って言葉とその音のもつ雰囲気を感じられるようにしていきたい。

また学習する中で、擬声語と擬態語の表記が平仮名と片仮名になっていることにも気付くだろう。その気付きから言葉を動作化して、「パンパン」のような耳で聞こえる音と「ぺろぺろ」のように耳では聞かない音に分類し、表記の違いと関係していることに繋げていきたい。

お話ができてくると、友だちの話も読みたいと思うであろう。友だちと読み合いをする中で、自分では思いつかなかった表現やストーリーに出会うこともある。**友だちの良さを認めつつ、新1年生に伝えるという目標を再確認し、友だちのアドバイスを生かして、文章を構成し直したり、接続語や場面転換の言葉を入れたりしながら楽しいお話になるようにしていく。**

本時では、挿絵の登場人物の動作や表情から想像を広げ、どのような擬声語や擬態語を使えるのかを話し合っていく。本時の学習問題は、「**どんな音がびったりかな？**」である。自分なりに感じた音を出し合う中で、「パンパン」「バンバン」などの言葉を動作化しながら違いに気付かせていきたい。**挿絵の登場人物の動作や表情から想像を広げ、自分の考えを素直に表現したり、友だちの意見を受け止めたり、聞き返したりしながら言葉のもつイメージを感じ、お話作りをする姿をひびき合いの姿とする。**そのため、前時までの学習で集めておいた擬声語や擬態語を掲示して自分の考えをもつ際の手助けになるようにする。また、話し合いでは児童同士が関わり合えそうな場を何回か設定していく。「どういうこと？」「もっと詳しく教えて。」などの聞き返す言葉も言えるような素直な表現を大切に、ひびき合いに繋げていきたい。

単元目標	○擬声語・擬態語をもとにしたお話作りに関心を持ち、創作活動を楽しもうとする。 ○「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話を作ることができる。
------	---------------------------------------------------------------------------

これまでの学習	お話をつくろう	文をつくろう	詩をかこう
	『まてまて かえるくん』 ・かえるくんのお話を作ったよ。 ・絵からお話を作るのが楽しかった。 ・かえるが捕まらなかったのが面白かった。	『ことばをつなげよう』 ・「□が□。」「□を□。」の文を勉強したね。 ・絵をみてお話を作った。 ・が、をで言葉が繋がっているんだ。 ・スーパーな言葉だね。 ことばのきまり1『文をつくろう』 ・外に出かけて文を見つけてみたいな。 ・「何がどうする。」「何はどんなだ。」の文を勉強したね。	『ころがうごいたこと』 ・一つに決めるのが難しいな。 ・じぶんがうれしかったことをかいた。 ・友だちと読み合ったのが楽しかったな。 ・生き物がどんな様子か書いてみたよ。 ・くわしく書いたら伝わることが分かった。

お話をつくろう①②

主語・述語の基本文型を知り、主述の整った文を書く。【書く】

- ・教科書の絵から作ってみよう。
- ・絵が変わっておもしろそう。
- ・女の子が手をたたいている。
- ・まじんと女の子が出てきたよ。

- ・文を書くのが楽しくなってきたよ。
- ・自分でもお話を作ってみたいな。
- ・おもしろいお話を作りたい。



女の子が1回手をたたきました。  
ランプがゆれました。  
けむりが出てきました。  
まじんが出てきました。



女の子はおなかがすいていました。  
おなかになりました。  
女の子はもう一度手をたたきました。  
まじんが女の子にアイスクリームをあげました。



女の子はびっくりしました。  
すぐにわらいました。  
あいすをなめました。  
まじんは、女の子に手をふりました。  
とんでいきました。

- ・お話できたね。
- ・でも、もっと楽しくできないかな。
- ・話をもっと上手くつなげたいな。

女の子が1回 **パン** と手をたたきました。  
すると、ランプが **カタカタ** ゆれました。  
そして、けむりが **もくもく** と出てきました。  
とつぜん まじんが出てきました。

女の子はおなかがすいていました。  
だから、おなかが **グーグー** となりました。  
そして、女の子はもう一度手を **パチン** とたたきました。  
なんと、まじんが **さっと** 女の子にアイスクリームをあげました。

だから、女の子は **ワー** っとびっくりしました。  
でも、すぐに **にこにこ** わらいました。  
そして、あいすを **べろべろ** なめました。  
すると、まじんは、女の子に手をふりました。  
そして、**ブーン** ととんでいきました。

- ・音があると楽しいね。
- ・そしてとかを入れると話が分かりやすくなったね。
- ・だれかに伝えたいな。
- ・もっと違う音を入れてお話作りしたいな。

絵から想像できる事実のみを挙げることで、擬声音や擬態音があることの良さやつなぎ言葉があると分かりやすい文章になることに気づかせる。

絵から想像を広げてお話を作っている。  
友だちの話聞いて活動に参加している。  
【関心・意欲・態度】

友だち、2年生、6年生、家族、先生、新1年生

お話作りをして、新1年生にお話を発表しよう。

- ・楽しいお話にしたいな。
- ・前にお話の中に音をいれたね。
- ・音って他にどんなものがあるかな？

音って他にどんなものがあるかな？③

- ・音ってどんな時に使うかな。
- ・肩はトントン、足はドンドンだね。
- ・「わくわく」も音だね。
- ・音って体を動かすときに聞こえるね。
- ・体を動かしても聞こえない音もあるんだ。
- ・音を探してみよう。

- ・ぼくたちも1年生になる前に学校に行ったの覚えているよ。
- ・新しい1年生に学校の勉強は楽しいってことを伝えたいな。
- ・楽しいお話を作って、新1年生に聞いてもらいたいかな？

児童から出てきた音を掲示し、いつでも見ることができるようにする。

耳に聞こえる音 (擬声語)	耳では聞こえない音 (擬態語)
・手はパンパン ・木はバキバキ ・お皿はガシャン ・足はドンドン	・たのしみでわくわく ・友だちがにこにこ ・びっくりしてどきん ・くもがふわふわ
・肩はトントン ・犬はワンワン ・お菓子はパリパリ	・赤ちゃんがすすく ・舌でべろべろ ・悲しくてしくしく

書き方がカタカナとひらがなののはなんでかな？  
何で違うのかな？

音の書き方が違うのはなんでかな？④

- ・耳で聞こえる音はカタカナなんだ。
- ・体を動かしてみたり、聞いてみたりすると分かる。
- ・書くときに気を付けよう。

耳に聞こえる音 (擬声語) と耳では聞こえない音 (擬態語) を区別して理解する。【伝国】

## 音を使ってお話作りをしよう⑤⑥本時⑦

### 1つ目の絵

- ・登場人物は男の子と女の子だね。
- ・葉が落ちてて秋みたいだね。
- ・ボールで遊んでいるよ。
- ・どんなお話にしようかな。

男の子と女の子がいます。  
男の子は、ボールでトントンと遊んでいます。ボールをポーンとけると、ドンと木にぶつかってしまいました。葉がひらひら落ちました。  
女の子は、じょうろにジャージャー水をくんで、花に水をあげています。花がゆらゆらゆれていました。  
太陽がきらきらまぶしい日でした。

・どんな音が入るとお話にぴったりかな。

- ・ボールが木に当たった時に、男の子がびっくりしているから、ドーンって強い音がしたんじゃない？
- ・ボールを蹴ったけどあんまり遠くにいかなくて、ころころってなったと思ったよ。

### 3つ目の絵

- ・登場人物は男の子と女の子と鳥だね。
- ・風船が割れて手紙が落ちてきた。
- ・誰に手をふっているのかな。
- ・どんなお話にしようかな。

男の子と女の子と鳥がいます。  
鳥がびゅんといきおいよく飛んだので風船がパッチーンとわれました。  
すると、風船からひらひらと手紙が落ちてきました。風船がすんと地面に落ちました。  
そして、男の子と女の子が手紙をパンとキャッチしました。

・どんな音が入るとお話にぴったりかな。

- ・手紙ってどうやって落ちるのかな？ひらひら？ゆらゆら？でも重そうだからぼとんかな？
- ・風船は軽いから、すとんにしようかな？

## 友だちはどんなお話を作ったのかな？⑨

- ・楽しいお話だね。
- ・1年生に分かる話かな？もっと短くまとめてみようかな？
- ・つなぐ言葉があるともっと分かりやすいんじゃない？  
そして、それから、つぎに、すると、だから など

語や文のつながりを考えて、書き直している。【書く】

### 2つ目の絵 (本時)

- ・登場人物は男の子と女の子と鳥だね。
- ・前の絵と少し違うよ。
- ・おもしろい話にしたいな。
- ・2人でボールをけて遊んでいるよ。
- ・鳥が風船をわってる。
- ・どんなお話にしようかな。

男の子と女の子と鳥がいます。  
男の子と女の子は、ボールをポーンとけて遊んでいます。ボールの音にびっくりした鳥がバタバタ飛んできました。鳥がびゅんといきおいよく飛んできました。風船がゆらゆら飛んできて、鳥が風船をわりました。パッチーンと大きな音になりました。

・どんな音が入るとお話にぴったりかな。

- ・鳥が速く飛んでるからはしゅんしゅんって音かな？だから風船の音もパッチーンって大きい音じゃないかな？
- ・風船ってゆっくり風に飛んでくるから、ゆらゆらかな？
- ・風船だからふわふわもいいんじゃない？

・お話にぴったりな音を考えるのって難しいね。

・お話ができたね。

どんなお話が続くのかな。

## 続きのお話作りをしよう⑧

- ・手紙になんか面白いことが書いてあると楽しいかな。
- ・男の子と女の子が手紙を読んで、返事を書くとか？

### 4つ目の絵

男の子と女の子が手紙をパンとキャッチしました。すると、1枚の手紙が入っていました。手紙は、誕生日カードでした。なんと、女の子が男の子に書いた誕生日カードでした。男の子はびっくりして、ピョンとジャンプしました。そして、男の子と女の子はにこにこして家に帰りました。

・友だちの話も読みたいな。

## 発表する練習をしよう⑩

- ・発表するために、どの話にするかに相談しよう。
- ・声の大きさと見せ方に気を付けないといけないね。

## 新1年生に発表しよう⑪

- ・お話作りたのしかった。
- ・緊張したけど、新1年生がおもしろいって言ってくれた。
- ・また、いろいろなお話をつくりたいな。

体や心から聞こえる音を使って、想像したことをもとに簡単なお話を書く。【書く】

耳に聞こえる音（擬声語）と耳では聞こえない音（擬態語）を入れたお話づくりを楽しもうとしている。

【関心・意欲・態度】

12月6日(金) 4校時 1年

本時目標：絵から想像できるいろいろな音を探し、絵に合ったお話作りをすることができる。

本時展開

学習活動

ツン  
ドン

パタパタ

ビュン  
シュンシュン

・ふうせんにあたってる。  
・ボールにびっくりしてる。  
・とりがあわてる。

ふわふわ  
ゆらゆら

・ゆっくりとんできた。  
・かぜにのってきた。  
・ふわふわゆれている。

パッチーン  
プッチーン

バン  
バン

・ふうせんが  
われた。

ビュービュー

ぽかぽか

どきん

トントン  
ドンドン  
ポーン  
ポーン

おとこの子 女の子 ふうせん とり くも  
くさ サッカーボール たいよう

ぴったりあう

音をつかって おはなしづくりをしよう。

主な支援・留意点 ◆評価【観点】

- ・前時の振り返り
- 前時の絵を見て出てきた音を掲示し、振り返ることができるようになっておく。
- ・本時のめあての確認
- 本時の学習のめあてを確認し、見通しをもてるようにする。
- ・友だちと意見交換する。
- 友だちと意見交換すること、考えに自信をもてるようにする。
- ◆耳に聞こえる音(擬声語)と耳では聞こえない音(擬態語)を伝えたり、聞いたりしている。【関心・意欲・態度】
- ・話し合い(全体)
- 話し方、聴き方を意識できるように声をかける。
- 児童の反応を見ながら、分からない表現や気になる言葉がないか様子を見て、後の話し合いに活かすようにする。
- ・音の違いを言葉で説明したり、動作化を入れてイメージしたりしていく。(全体)
- ひとつの絵でも、いろいろな音で表現することができるおもしろさに気づかせるようにする。
- ・友だちの音を参考にしながら、絵から想像したお話にぴったり合う音を使って、お話づくりをする。(個人)
- ◆絵に合う音を想像して、簡単なお話を書く。【書く】